

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第2回相模原市障害者施策推進協議会		
事務局 (担当課)		健康福祉局 地域包括ケア推進部 地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222 (直通)		
開催日時		令和7年10月14日(火)		
出席者	委員	19人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、 福祉基盤課長、高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、 精神保健福祉課長、精神保健福祉センター所長、 緑高齢・障害者相談課長、陽光園所長 ほか8名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1)相模原市障害福祉計画等策定基礎調査の内容について (2)ヒアリング調査について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

1 開会

【事務局】地域包括ケア推進部長からあいさつを行った。
新たに委員に就任した水上委員から自己紹介を行った。

2 議題

(1) 相模原市障害福祉計画等策定基礎調査の内容について

【事務局】相模原市障害福祉計画等策定基礎調査の内容について、資料1、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料3を使用し説明。

(安永委員) 資料2-1の問6「害」の字について、使っているうちに当たり前になる流れが出来れば良いと考えているため、設問を設けることで新たにネガティブな認識を与えることになるのではないかと考える。プラスの効果があるのであれば良いが、言葉の認識を新たに刷り込むのはよくないとする。また、資料2-2の問38について、判断力が低下した方、不当な扱いを受けた方と並列になっている。判断力が低下した方「が」、不当な扱いをされた場合等に変更した方がよい。

【事務局】害の字について、現在の取り組みは試行的な実施である。その上で今後、市民がどう思っているか意見を聞き、市役所全体の取り組みを進めていくための参考として設問を設けている。問39については差し替え資料にて安永委員の意見を反映し、修正した。

(村井会長) 厚生労働省や内閣府の自治体の統計にて5指定都市、10都道府県は明確に「害」の字を使用していない。相模原市についても方針を明確に決めてはどうか。

(今井委員) 資料2-1、問26「害」の字の説明文について丁寧な説明が必要だと思う。各課の名前に漢字の「害」を使用していることから違和感が出るのではないかと考える。

(村井会長) 文章中で何のためにひらがなに移行していくのか示した方がよい。

(片岡委員) 精神障害者には「害」の字の印象が特に悪い。精神障害者団体では文章にする際は全てひらがなにしている。相模原市でもぜひ「害」の字をひらがな表記と

していただきたい。

（今井委員）資料２－１、問２０の選択肢について「支援学級」ではなく「特別支援学級」で正しいのか。

【事務局】確認次第、適切な表現に修正する。

（片岡委員）資料１の裏面の調査票の配布方法について、統計に基づき抽出し郵送とあるが、発達障害者及び重症心身障害者は対象者全員となっている。配布手法が違うのはなぜか。

【事務局】統計手法上、身体障害者等は統計学上、アンケートをするにあたって必要な数字が出せるため数字を限定しているが、発達障害者、重症心身障害者は人数が少ないため全員に配布する。

（木村委員）同じく配布手法について、身体障害者の中でも視覚障害・聴覚障害・肢体障害等の分類があるが、それぞれの障害分類で統計手法的に抽出しているのか、全部を足したもののから抽出しているのか。

【事務局】身体障害者宛通知６８０通の中で、障害の分類ごとに数が偏らないように分けている。

（木村委員）令和４年度のアンケート調査時に身体障害者のみで６５％超の回答率があるが、その中で身体障害種別の内訳を教えてほしい。

【事務局】身体障害者の大枠についてのみ把握している、細かい内訳は把握していないため、後日報告する。

☆令和４年度の回答内訳について、障害種別が重複しているため配布数と合致しないが、視覚障害が３８人、聴覚・平衡機能・言語・音声・そしゃく障害が７２人、肢体不自由が３７８人、内部障害が１８６人である。

（木村委員）たとえば対象者で聴覚障害の人が少ない場合、統計的に有効な調査になるのかどうかを教えてください。身体障害者についても障害別に配布・調査すればよいのではないか。

【事務局】先ほどの内訳を確認し、割合を含め今回の数量について検討する。

(村井会長) 全体数が少ない場合、全数調査をするという同じ区分になるため、種別ごとの調査を検討し、妥当な調査をお願いしたい。

(今井委員) 資料２－１の問９，１０については名前を知っていることだけではなく、意味を知っていることを聞くのであれば、現在の選択肢は答えにくいのではないか。資料２－２の問３８の注釈部分は、「身上監護」ではなく、「身上保護」ではないか。厚生労働省のホームページをみても監護ではなく保護である。また、日常生活自立支援事業は社会福祉協議会が行っていると明記した方が良いと思う。資料２－１の問１２－１の選択肢５番「地域の行事の集まり」を「地域行事等の集まり」としてはどうか。

【事務局】 標記等確認し改めて整理する。

(村井会長) 障害者虐待防止法、障害者差別解消法について、名前を知っているだけでも意味はあるが、「名前を知っている」、「名前と意味を知っている」という選択肢を追加してはどうか。設問部分に説明文を追加すればより良い。

(小林委員) 資料２－１の問１１「障がい理由とする差別や偏見はあると思いますか」について、前ページの問７「障害のある人たちに関心をお持ちですか」、問８「障がいのある人と交流したり、一緒に過ごしたりする機会がこれまでにどれくらいありましたか」の質問にどう答えているか気になる。障害に興味のない方は問１１に「ほとんどない」と回答し、障害に関心のある方は問１１に「ある」と回答するのではないか。単純集計ではなく、クロス集計をする等深い分析をすれば今後に繋がると思う。

(石井弘子委員) 調査票が一般市民と精神障害者と分かれているが、収集の仕方は障害者手帳を所持している人からランダムに送付しているのか。

【事務局】 障害者手帳をお持ちの方から無作為抽出配布をし、一般市民の方は全市民からランダムに抽出している。

(石井弘子委員) 文字が読めない視覚障害者の方にも届くのか。また、点字はあるのか。

【事務局】 視覚障害者も対象になっている。前回調査時と同様点字版の作成を予定し

ている。

(石井弘子委員) 一人で回答が難しい知的障害児等、親が回答する場合は誰が回答したかわかるようになっているか。

(村井会長) 項目別に分かれているわけではないが、資料２－３の P1 に調査票の記入者を答える設問がある。

(片岡委員) 資料２－２について、１％にも満たないが、精神障害者の事件が起こると報道メディアが執拗に取り上げることがある。このことについても障害者差別だと思つたため、こういった内容を選択肢に追加することは可能か。

【事務局】現在の設問項目だと直接的な質問を設けていない状況のため、反映が可能かどうかは検討する。

(小砂委員) 資料２－２の問９について、地域包括ケアということで地域や病院、施設が区別されなくなっているため、「地域で生活したい」、「施設で生活したい」とあえてカテゴリを分ける必要はないのではないか。人によっては選択肢４の「グループホーム」も施設と考えられる。また、問１０－１についても、病院も地域の一つの資源と捉えれば分ける必要がないのではないか。病院に入院している時点で地域にいるという認識に変化しており、精神障害者も「にも包括」という形に変わっているため標記の仕方や区分について工夫して良いのではないか。

(片岡委員) 小砂委員の意見に賛成であるが、最近は「にも包括」でも地域移行支援に力を入れており、病院を退院して地域での生活をという流れのため、個人的には病院は地域ではないと受け止めている。

【事務局】設問１～７の表記のみにしたうえで、必要に応じて、調査結果報告にてカテゴリを作りながら検証していきたい。問９の見出しは取る方向で検討する。

(安永委員) 資料２－２の問３９の成年後見制度の注釈部分について、「身上保護（生活・療養監護に関する事務）を行ったり、同意権、代理権を与える制度です。」と、変更した方が法律的にもわかりやすく具体的になると考える。

【事務局】今井委員からの意見と合わせて参考にし、修正案を作成する。

(村井会長) 後ほど気が付く点もあると思うが、会長、職務代理預かりでよいのか。事務局のスケジュールはどうか。

【事務局】 今回のアンケートは調査期間確保のために12月上旬の配布を見込んでいるため、今月中にご意見を反映、修正する予定。

(村井会長) 気づいた点は今月中に事務局に伝え、調整していく。

(2) ヒアリング調査について

【事務局】 ヒアリング調査について、**資料4**を使用し説明。

(木村委員) ヒアリング調査書が送られてきてヒアリングもするのか。流れを教えてください。

【事務局】 資料4に記載の機関にヒアリング調書を送付し、調書にてヒアリング希望と回答をした団体と日程調整をしてヒアリングをする流れである。

3 その他

【事務局】 高齢・障害者福祉課より2025デフリンピック内定選手への応援メッセージ募集のチラシの配布と周知を行った。

4 閉会

以 上

相模原市障害者施策推進協議会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠 席
1	浅沼 一也	特定非営利活動法人神奈川県難病団体連絡協議会		出席
2	石井 和馬	一般社団法人相模原市手をつなぐ育成会		出席
3	石井 弘子	一般社団法人相模原市手をつなぐ育成会 理事		出席
4	今井 康雅	相模原市障害福祉事業所協会 会長	職務代理者	出席
5	井本 裕堂	公募委員		出席
6	片岡 加代子	相模原市精神保健福祉家族会みどり会 理事		出席
7	木村 健	相模原市聴覚障害者協会 役員		出席
8	小砂 哲太郎	公募委員		出席
9	小林 輝明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		出席
10	佐々木 学	相模原公共職業安定所 所長		出席
11	鈴木 泰明	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 常務理事		出席
12	高橋 滋子	相模原市視覚障害者協会 理事		出席
13	堤 道子	相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事		出席
14	藤原 英明	神奈川県立津久井支援学校 校長		欠席
15	堀 朋子	相模原市精神障がい者仲間の会(あしたば会)		出席
16	村井 祐一	田園調布学園大学 教授	会長	出席
17	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会 理事		出席
18	安永 佳代	神奈川県弁護士会		出席
19	吉原 君子	相模原市肢体障害者協会 会長		出席
20	渡辺 幸雄	公募委員		出席